

被災地の葬儀にあってほしい「火葬場」、「棺」、「遺影」

— 団塊世代の男女に聞く「団塊世代の葬儀観」調査を実施 —

㈱くらしの友

弊社では、秋のお彼岸を前に「団塊世代の葬儀観」調査を実施しました。

本調査は、既に還暦を迎えた団塊世代の男女を対象に、葬儀や人の死にどのような意識を持っているかを探ろうというものです。弊社はこれまでも団塊世代を対象に調査を行ってきましたが、今回初めて男女同時に調査を実施しました。

今年は未曾有の大災害に見舞われ、“人の死”や“供養のあり方”について考えさせられる場面が少なくありません。

男女の意識差や、東日本大震災による意識の変化はあるのでしょうか。

< 目 次 >

- 葬儀は…男性は「遺族のもの」、女性は「自分のもの」 (2P)
- 9割近くの女性が、自分の葬儀について生前に話し合う (3P)
- 演出や規模など「葬儀の内容について話し合いたい」がトップ (4P)
- 葬儀に望む形式…トップは「家族葬」。女性に多い「身内葬」 (5P)
- 団塊世代は、従来の葬儀のやり方にこだわらず (6P)
- 遺影の選択…男性は「遺族が選ぶ」、女性は「自分が選ぶ」 (6P)
- 団塊世代の葬送曲…「川の流れるように」、「千の風になって」 (9P)
- 女性の心を打った、田中好子さん最期のメッセージ (10P)
- 女性の1割以上が、震災後の葬儀観に変化 (11P)
- 震災後の葬儀観の変化…比較的小規模な葬儀でもいい (12P)
- 「土葬しかできないこと」に衝撃… (13P)
- 被災地の葬儀にあってほしい「火葬場」、「棺」、「遺影」 (14P)
- 家族間の“絆”の中身は、「思いやり、いたわり」 (15P)

この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

㈱くらしの友 お客様サービス部 広報課

阿部、浅井

TEL 03-3735-5357